

婦人服地の品質の客観的評価式の適合性

○井上尚子* 丹羽雅子**

(*梶山女学園大 **奈良女大)

目的：婦人服地のデザインは構造線が複雑で多岐にわたるために、シルエットによって3分類に判別してシルエット別の主観的評価を実施してきている[1]が、その評価において評価者グループによって評価基準に差のあることが認められた[2]。ここでは、各評価者間の品質評価値の相関が高かった評価者の評価値(危険率 1%以下)を用いて、品質風合いの客観的評価式を誘導し、その適合性を検討する。

方法：婦人服地は布表面が比較的平滑な 874 試料を、1995 年から 1999 年に各国から広範に集めた。これらの試料布は布の基本力学特性値(引張り、曲げ、せん断特性と平面重さ)によってテーラード、ハリ、ドレープタイプに判別した。品質風合いの主観的評価は各シルエットグループに対して 5 段階評価を行った。評価者は製布技術者、流通、デザイナー、被服学関係の大学教員、学生、一般消費者の評価者グループの合計 80 名を被験者とした。評価者グループ間の評価の差および女性と男性評価者の主観評価の差異等を検討し、各々の判断基準を分析するために基本力学特性に基づく品質風合いの変換評価式を個別に誘導し、ここでは判断基準の一致しているとみられる評価者の平均評価値をとりあげて、客観的評価式を誘導した。

結果：品質風合い値の高い布、低い布の基本力学量の範囲はどのシルエットでも明確にわかれ、判断基準に圧縮、表面特性の寄与の大きいことが明らかにされた。学生、一般消費者グループで客観評価式の適合性を検討した結果、テーラードタイプ次いでドレープタイプの客観評価式に比較的良好な適合性が認められた。文献[1] T. Inoue, M. Niwa, S. Kawabata, et al.: *Int. J. Cloth. Sci. Tech.*, 12, 205(2000), [2] T. Inoue, M. Niwa and S. Kawabata: *Proc. of the 29th Text. Res. Symposium at Mt. Fuji*, 2000